

平成30年3月 経営協議会議事録

- I. 日 時 平成30年3月15日(木) 14時00分～16時30分
- II. 場 所 学術総合センター 一橋講堂特別会議室101～103(1階)
- III. 出席者 徳久学長、有馬、犬養、香藤、河田、黒木、島田、銭谷、西堀、萩原、船橋、正宗、宮坂
中谷、渡邊、関、山田、猿渡、堀、小澤、金原、佐藤、中山、齊藤各委員
- ガザバー 桑古監事
 (欠席者：加賀見、武藤、山本各委員)

- IV. 前回(1/18)審議議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項(◎学外委員、○学内委員)

1. 平成30年度計画(案)について

中谷理事から、3月末までに文部科学省に提出する平成30年度計画(案)について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 学生の海外派遣数が国立大学の中で全国1位であるが、どのような国に派遣されているのか。もっと宣伝したほうがよい。
- 一番多いのがアジア、次にヨーロッパが多く、アメリカは少ない。海外派遣数は、昨年度から120名ほど伸びているが、他大学も伸びている。
- ◎ 例えば、月に1度記者会見を行い、新しいプロジェクトを宣伝するなど、定期的実施したほうがよいのではないか。
- ◎ アメリカ留学について、日本からの申請者が激減しているようだが、なぜなのか。
- 20年前と比べ、半分程度になっている。要因の1つとしてはアメリカの授業料が日本の国立大学の8倍程度となっている。一方で学生が多様性を求めるようになり、ヨーロッパの大学が英語でプログラムを組むようになったことなどいろいろな国に行くオプションが増えたことなどが想定される。

- ◎ 実際に留学した学生の英語力が上がっているか検証しているのか。
- 各プログラムごとには行っている。大学全体では入学時にTOEFL試験を受験させ、3年生終わりか4年生初めに各部局ごとの統計を取っているが、全てで結果が出ているわけではない。来年度以降に語学教育を刷新するなどして、定量的な検証を進めていきたい。
- ◎ 大学として留学を進める狙いはわかるが、経済的な支援はどのようなになっているのか。
- 留学する6割から7割の学生が、何らかの援助を受けている。

2. 平成30年度学内予算配分（案）について

猿渡理事から、平成30年度千葉大学運営費交付金予定額、機能強化経費事項の概要並びに本学の機能強化、予算面における本学の現状と課題、予算編成の基本的な考え方及び経営力強化に向けた取組等を踏まえた平成30年度学内予算配分（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 寄附を増やすためには、きちんとした組織を作り、千葉大学の卒業生で金融経験者を複数雇用する必要があるのではないか。
- ◎ アラムナイメイトを通して、寄附を集めることができるし、若い人は寄附金でどのような効果がでるのかなどを知りたい。アラムナイメイトを学校に呼び講義していただくなど工夫が必要である。

3. 平成31年度教育組織の改組（案）等について

中谷理事から、平成31年度教育組織（教育学部、薬学部）の改組（案）等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- 薬剤師免許取得者のほとんどが私立大学の薬学部出身という状況である。その中で本学は、薬剤師免許を持って研究能力が高い方を輩出したいと考え、改組を計画した。今後の10年を見据えて、しっかり動向を見ていきたい。
- ◎ 薬学部改組については、時代のニーズにあっていると思う。
教育学部改組については、現在の教育界において従来型の教育体系ではなく、アクティブラーニングに主体をおいた教育になっていく。それを受けて地方ではバカロレアの資格をもった教員が全て英語による授

業を行う学校が新設され、多くの需要があるように見受けられる。
日本の教育体系に満足していない親もいて、子供によりグローバルな人材に育ててほしいという思いが強くある。時代のニーズであるバカロレア制度に合う教員を輩出するような革新的な制度導入が必要ではないか。

- バカロレア制度そのものが、まだ日本に定着していない。バカロレアの尺度で、ものを見るのが日本では出来ておらず、もう少し様子を見たほうがいだろうというのが各国立大学の見解となっている。例えばアジア全体の高校生が日本の大学を選択する時代がくるだろうと、その時にはバカロレアの考え方が必要であり、一方で教育学部の改革プランには入っていないが、次の世代になった時には日本人だけではなく多様な人種を教えることに全く対応できていないため、今後時間をかけて検討を進めたい。
- 今回の改組では、英語教育コースを専属で設けようとしている。英語で教育をすることはまだ遠いかもかもしれないが、まずは第1歩として動きだしている。
- ◎ 千葉大学が、日本を代表する学校であるということならば、世の中の流れに対応する姿勢ではなく、千葉大学が日本をリードするようなパイオニア的なことをしないといけない。タイミングの判断は任せるが、世の中の流れは大きく変わっていると感じている。
- 教育学部において、本年度末にアジア・アセアン教育センターを立ちあげ、アセアン地域を中心とした教育カリキュラム等をスクリーニングする研究をする。日本の初等・中等教育とどれだけ違うのかまさに研究を始めたばかりである。その中で新たなプログラムを教育学部の中、或いは大学院レベルで開発していくことを考えている。
- ◎ 薬学部改組について、薬剤師養成は将来の需要を見込んで設定する必要があるが、厚生労働省の見解はどうか。
- 国公立大学薬学部長会議には厚生労働省の関係者も出席しており、その中で、研究ができる人を養成してほしいと厚生労働省担当官から話が出ている。本学としては、特別な資質を持った薬剤師を養成したい。
- ◎ 千葉大学教育学部には是非日本の小学校教員のリーダーになる方の養成にシフトしてほしいと思っている。中学校、高等学校の教員はどの大学でも養成できる。小学校の教員養成については、国立大学教員養成学部が独占的に行っており、日本の小学校教育の充実に大きな貢献を果たしてきた。昨今私立大学でも小学校教員養成課程が増えてきたが、先進国に比べると小学校教員の学歴が日本は異常に高く、そのことが日本の教育の強みになっている。小学校教育の内容が変りつつあるが、こ

ういうときにこそ千葉大学が小学校教員のリーダーになる方の養成に取り組んでいただきたい。もちろん中・高についても千葉大学全体で取り組んでいただきたい。また、附属学校と連携をとることも必要である。

4. 学内組織の改組等に伴う規則等の改正（案）等について

中谷理事から、平成30年4月1日学内組織の改組等に伴う規則等の改正等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

5. 国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について

猿渡理事から、クロスアポイントメント制度等の見直し及び平成29年人事院勧告対応等に伴う国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

6. 平成30年度資金運用方針（案）、資金運用計画及び資金の長期運用（案）について

猿渡理事から、平成30年度資金運用方針（案）、資金運用計画及び資金の長期運用（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

7. 平成30事業年度附属病院施設整備等事業に係る長期借入金について（案）

中谷理事から、平成30事業年度附属病院施設整備等事業に係る長期借入金について、資料に基づき説明があり、審議の結果、具体的な当該借入金の返済計画について、次回の経営協議会において説明することを前提として学長へ一任された。

主な意見は以下のとおり。

- 結構な負担額であり、今までは病院が稼ぐことが出来たのでよかったが、今後は、消費税の引き上げ、医療単価もこれ以上あげられないなど、病院の負担になっていることをよく知っておく必要がある。
- ◎ 返済計画がないが、どのような返済計画があるのか提示してほしい。
- 次回経営協議会において再度説明する。
- ◎ 利率についても、併せて説明願いたい。

8. 経営協議会において選出する学長選考会議委員について

学長から、経営協議会において選出する学長選考会議委員について、資料に基づき説明があり、審議の結果、以下のとおり承認された。

- ・有馬 龍夫 委員（再任）
- ・犬養 俊輔 委員（再任）
- ・河田 悌一 委員（再任）

- ・黒木 登志夫 委員（再任）
- ・島田 精一 委員（再任）
- ・銭谷 眞美 委員（再任）
- ・宮坂 信之 委員（再任）

VII. 協議事項

1. 国際教養学部の実施について

小澤副学長（学部長）から、平成28年4月の設置から2年が経過する国際教養学部の実施などの現状について、資料に基づき説明があり、次回経営協議会終了後、学生との懇談会を開催する予定である旨報告があった。

VI. 報告事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 中期目標・中期計画の変更について

中谷理事から、中期目標・中期計画の変更について、資料に基づき説明があった。

2. 平成30年度千葉大学個別学力検査等実施状況について

渡邊理事から、平成30年度千葉大学個別学力検査等実施状況について、資料に基づき説明があった。

3. 経営協議会委員について

学長から、平成30年4月からの経営協議会委員について、資料に基づき説明があった。

4. 部局長の選考について

学長から、部局長の選考について、資料に基づき説明があった。

5. その他

①グローバル化に対応した言語教育の在り方に係る検討状況について

小澤副学長から、グローバル化に対応した言語教育の在り方に係る検討状況について、説明があった。

主な意見は以下のとおり。

◎ 体制の問題として、語学の教員は、学部に属しているのか。

○ もともと国立大学では教養部が初修外国語を担当していたが、教養部が廃止された後は、各部局に所属する形となった。現在、初修外国語教育については、新設の国際教養学部も含めて、文学部、法政経学部の3学部に分かれている。従来は全学的に言語教育については言語教育センターで運営していたが、今後はいろいろな学部の教員を集め全学的な体制の下に進めるような仕組みに変えたいと考えている。

- ◎ 大手私立大学は、それぞれの学部に外国語教員がいたが、専門の教員からすると語学の先生ということで差別されてしまった。出来るだけ一つにまとめ、そこから出向する形をとったほうがよい。
- 大学全体として言語教育をどうするのかを考えることが最も大切であるため、今後は一体としてやっていくことを全学的な方向として進めて行きたい。
- ◎ 言語を学ぶ意味というのは、文化的背景の中にもその人の思想などが一生残るものである。それはグローバル人材を育成するにあたっての重要な要素として認められているのは「カルチャーインテリジェンス」である。言語の勉強はカルチャーインテリジェンスに繋がる。また、一箇所に教員を配置し、そこから教えに出ることは、横の繋がり的手段として使えると思う。
- ◎ 昔は英語を学ぶことは辞書を引くことだったが、電子の世界が教育に入ってきて学習の質や語学教育が変わったのか。
- 学習の中での電子機器の果たす役割については、議論されているが効果など結論はでていない。
全体的に辞書を引くことも電子機器で見ること、言語に触れることに変わりはないと思う。今後、授業外で学習できる仕組みを提供するためには電子機器は有用である。本学ではスマートラーニングとして推進していきたいと考えている。

②千葉大学一般入試における問題文の訂正等について

中谷理事から、千葉大学一般入試における問題文の訂正等について、資料に基づき説明があった。

続いて、学長から、任期満了で退任となる猿渡委員の紹介があり、猿渡委員からの挨拶の後、謝辞が述べられた。また、卒業式及び入学式における学外委員の来賓祝辞について紹介があった。

以上